特別
へ13
4338
1

伊勢文

序

むかしく竹取の翁といふ祖父
いらつめ。豆山へ井とりふ紡し
いみへと綴り。日本遠葉こゝ
ぶけ。淨瑠璃よ淨瑠璃を作り。年ゆのく
今又あらまほかくや姫の。廓へ
まこる今様の育ち俺をはぐ者。

へ13
4338

〈2003-017〉

ちぐ小傾城蓬莱山と古郷を新
しくぞてよ櫂でくの眼も寿ち
日のちぐさとりとめ。四ゆ
あまてく祝ひうり

宝暦九乙
卯乃初春

八文字
作者 李秀
自笑

蜉情蓬莱山

目録

第一 似我蜂の巣てし女息女
子を捨る藪ハあまとも兒保の松原ハ
きてらしぬまま付さりかやく即祥
るから杉りて歩めてそう蚕人の雛

一之巻

黒門通一條上町
帯屋半兵衛

第二　竜孤の穴にて嘆父子の息
系図彫い死の仇と云う髪の毛
一盃くいぬい流石の大小鍋のけまりぬ
死のこころ雪てこそ揮七が恵智恵

第三　外猪の床にて　大工婚
高よりする新関いあ家も毎夢が新
より足まりこと毛髪の糸探しひ小ぬ
十家盤こうてこ小ぬ蛭背のうけ筆

第一　仙我峰の巣ふし女のむしあ

秦の始皇帝不死の薬を求めんと又ぐ方士を遣して日域小海より後加冨士山に登りて謂う。滅ちるうる紀人は所す集りて天人の天降りしいつも紀女の事なり。須弥の如別十年の齢も。五穀滅却の時は人百よりて生まること。楽しむ節は人倫のおもむきあるべ。業よ義てあり蓬よ芳しき事いうしいるも。誘ふ言ばいまつて衰情美一と同日の言葉深ちるうる言小琵琶の如あのかくり小行元の義しいて大孫長者あり。いそう関ありて吾言小ちぐちぐり。そぐり毛の糸掛ふ甲斐伝説の不二の系を

禅閑して風雅をこのむ長船ふまけぬ侍の老母もなれく
よろこびこの実ひぐらしのまざけうの答よ十五夜の月及
を味いひ長脇巾のもふ小出しの後もさしもぐらふなる
てふ桃のやうくしいと見とりづりゆく学鞠のひとの
ちりもあもちさふむろぐのるまが背中かり後えんのうをへ。
こきハ年ぬかをうてこちらうちぐむまくこひ出ぬそひ
かりうをるしひとりぐいひ出せば孫よそうぐやハレかうつ。
くハふとこ保の拍子天人の雷鳴出ちぐして拍ぐ
てハあるまいしいを作えの義いうもそちせがいうとり。
こきハぐこでも拍子のけうそうふるまそこくをさぐさせ
らくあよそのうつさ鞠のけやはのちりくさ答るの
声よりうを絵とかいうとうふなうこ声ひうつふかあいらしい

赤ふとをてく親ハぐんかけんぐんをのぎやちぬしぐれ
けげ長船よ月をれハでも掬をあるらしい赤ぐやふぐれく
てくと情よいれぐふく出ぐけひまがいうこ嘆のこありハ
ちう系沖津けうちと絵るの結答ちうて行にのとかう。
嘆びかるとこれぐれ拍のうくはりくうこをのふかい
てあるようふんじやがこまでこぐるくはくとくぐイヤうぐ
かくハ人百ふけうぐ。ぐるよ義絵とてきまりむこきハ長
て津ひ書ちり。今拾ひうをあのハ我ぐるあちりぐやくうく
あのうきちんがふうて背戸門小ふをかうてもおりしめく。
せんぐくなの蝶刀がいうちうふ河つきぐさりとハ天人ぐのに
ハにあひこさぬしやつこうさのてう平ぐこのいうちうとぐ行
名の箱ハ拍子をとてぐてハはるみの親とハこはしを女まく

ふじの山
やつとこさ

ろくろくせぶつ事ふ幸うふ扨そんぞふとくふくい（だぞまい
ふ）ぬ事でござんと。紅塵嫌ものけぶふさ界（ぐづ〜ぐ
るとらひもうぬ。いふふらふをめざいそ。のまりうん
かふふ出ようそんふ。そんふ。ぞ程やりふとくひゆ〜ぞまつる
てさぬ肉洗より去事ふけまと。ち乱づひふさまふと。
よいくしこ海とんでそうて。ぞまぶせりふいぬふさるぐ〜
ぞんも。翔ち紀るのぐ〜くにて。ちぐ〜ひていれ〜ぶ。
ぐでも芒ふうが焼さんのて〜ど。さころにて白猿と
いふ黄狗とだまさんく〜かくふあづま歌でも舞うけどバ放
ぬいふ。やく〜そしでい嵩ぶかく〜ぬいつそこるさ（書ふやり
まきやう〜。ゆさ天人いかくぬつふものぞさまきざいのさと
かく〜ふりまーぬ。ぞうく〜ぬ雲のかよひ絡ぼびうけて。

せんさふくそんちぐ。ぞふ事ふのまちるく。し女ハ我ふふ
ふさとおく〜ゆさゆふ事ハまきふそぶづもつきぬいて
いちるく〜んと。一首とう〜孫ひ〜ふ〜ふ冨士のさくよかを
うふちりてうせふ。ふるそまふる義女閑ふかう。年月きよ
て農音ちるふその英ちる事ーまくそびひふ。ぞとくて
ぼく〜人よ意こぐ〜者。漢の海ぞふひく〜ぞ。后の道を
廃ふう美〜〜や。洩ふ〜ふ〜ふ海ふ尾ひまと。分て。
天人のまとふ〜ひ〜事かくまちるふ〜ふ

第二　蓬莱の宮殿の玉の枝

花叔ぐ絶出ふ使〜てふ〜めく〜まー放人の情算廛の
ぼくふの戦出者一の人物〜。蘇老泉がいひ〜。搖物紅鉄
ふる今古その情とぼくまとものぞづ今の世ふ移ままちと。

いへども男兒ハ心をとそめうへ小兒をとりこいつをとりこく
せりぬ。あふ江加ちゑと石紙の百布引ひしいつて。ねぐらう
をへていつる高陰ふ。穴をとりうへ麦ひとりの麦のひさしまへ
かくむこをまき出る月のもへ人屋ちかぐらひもせど
くいへ煙筒ゑ法師とやーるひ。ふるへ人いるるれどもまこと
死もせぬ。天百人を救ーぬ。ぬいつふきへのことり海
百ゑ出て一文殊とをこひそのの日をるこのてちーのてこ七ち
金仲百ふちかぐ比とぴく水の籠布知ちもはるこのちを
どぴく穴のちふ年月をおんをぶ漁ゑ幽谷の花ちと分
別らい船つをふうもうぐりがいてゑハイ。いくひちりゑか
つこまやそ。ひんまりかーぐるふ。伯夷叔斉ハ陽山ゑ入て
蕨ゑ飢をーちひ。玄宗皇帝ぐも掘りめーと掘しく。

くふ。ふ。幸行やーのおでんをこんハ。ちりあいうもーぐり
ぐつ人。ぴりマをれらふ。学ぶ文ぐてもちぐものことりのおん食。
ぐーでーふしをこちるいあぐあるものでいつ。ぬ。おきをとえてて
くまいひちりふ。ちちふいちりハちてゑまてぐも。近つけを
りーの家来関ゑ為ちまつくいつ老ぐ。人小小油とおてひしゑ
まる苦ーや。その他ねをてんまいー。ぬやーー一色をちり中。
ふし色ハふ。ぬりの事一今ひつてく赤ーちぐーく鱸ぐ坂の
北美美ゑてあてくも山一通の感涙ちりー。鯰ハ。めぐー
て情ゑのハーソーとぴーちやちーーんをおぬ。ぬやあーーん テモ ん
ふいえはあてふやーのてこぐんをーつてハずつーーえちゑやぐ。イマ
まーこ気あの義市ぐんちーふいーぬぐんの新美ぐ陽ーを
いまぬやーておつーちなまぐんをーぴ。いまぐーれーーてあーーそひ待ち

あひとり合つゝあひとる様あり。経帯ゝゝゝとあてる也。
只ひゝいきふ息ゝ有まゝ、パラ〻ごゝらくち事ちてのけて。イ
をいかのまゝゞ系書書まゝてしゝ。やゝゝゝゝ〻ごゝらつがゝらふ
らゝゝ一つ毛でまいゝ毛あゝ。経ゝゝゝゝゝまふゝゝとひいて称
ゆ分まゝゞ。ゝらゝゝゝゝゝ

親父はさる者い縁者の者に申しあいの筋あるのもとに申ぶやく
しまりうるとぶじをもちまいそこふた盗人こふしいあるとる
ごころ時分の一俵とこそ名目とあるとぶ
ぶあるごとくくんのごーハせぬしぶもちてかるとぶとかるー
こいのんまりばくはるもんぶそんぶるでいくやるぶてこせーじや
るいるそーらぬ奥まるかるとかひくでぶこうやるーまるるざ
なるるまいるぶちるでるーるはちるに面ぶさんるまやるーんの足
男ハ弘でるへ鮭ハ乳でせぶ今もせいハ神もれ感もせいくるぶ肩
まりけるづちせぶ白ハるハ盗人のる名とあるるあ行るりの
羅とるるどり行生源右男るるるるぶるいいけ
の川原にてかるごとけるひ男のとさてんるる事もるいたふ。
都義そるるいるるるぶハ私のるる風るるるーぶるれと行よ

逆まのかるらぬいるるやまとのるるーとるるるりぶやるくるる行
反の羅ハ門る案内るーぶかるくるいるひいるまばる羅のるるるるびまる
射面まるべるるるーぶ玄蕃かるる面せるるまるだるるるに表のるるんぶも
のてこ七ハ面るるるまるばるくるるるるるりるるかのまんぶるるるる
感陽宮のかるくるぶんでるるるぶめるるるるるるるて親まの名まる。
まるるーの一面るるりかるーまわるるるるるるる

[illegible]あけ。母の[illegible]ぐらゝ[illegible]ぐらゝ[illegible]ぐらゝ[illegible]とゝめ
てゝこのゝの結ぶ[illegible]。[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝりてゝ七ゝぐゝふつゝげふ。[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
の母ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ふりてあり[illegible]と[illegible]ぞ。[illegible]
八雲[illegible]のへ[illegible]ゆ[illegible]ぞ小をゆ[illegible]
中[illegible]島[illegible]布[illegible]へ[illegible]
[illegible]のびら[illegible]ぞ[illegible]
のゆ[illegible]をさい[illegible]。[illegible]
[illegible]つけ[illegible]ん[illegible]
雖[illegible]と[illegible]
[illegible]
[illegible]

そうてうとくぶんく折柳ぶんこの花かしてくろ
ぶくろ折くよこそまこさこそ海こそふ物ふくぬ見まて。そまこ紅
まで四巻のくハかくどけふいくけくしてはあよろしく。
そまこうしまあ志とかしめくそくぐみのつくしひぶあく
いこうとくぐこ。煖ふふそ中くふり。海くこ書花のけこ衣
傍白遍昭くいこまこ行ひしいこ。この色筆古帝の事ふふしこ。
激ふで打りひこくまこりり。

一之巻終

怡顔齋松岡玄達成章先生撰　梓行

梅品　全部二冊

此書者、悉花木形狀摸寫數品梅安見分便ゝ
右之本清求所望希ハ